

共産党「福祉灯油急げ」

18.11.2

北海道 燃油4年ぶりの高値

低所得層・被災者に追い打ち

日本共産党北海道委員会と道議団は1日、4年ぶりの高値に達している燃油価格の高騰対策を求め、高橋はるみ知事に緊急要望しました。菊地葉子、宮川潤両道議らが要請しました。保健福祉部の京谷栄一福祉局長が応対しました。



京谷局長（左）に要望する（右へ）
宮川、菊地氏ら＝1日、北海道庁

札幌市でも手稲山で初冠雪があり、厳冬期を前に、燃油価格の高騰で道内では灯油価格が1リットルあたり100円を超え、レギュラーガソリンが160円を超える地域もあります。菊地氏は、とりわけ所得の少ない世帯には大きな負担であり、北海道地震や台風被害の被災者に追い打ちをかける負担増となると指摘。安倍自公政権が10月から強行した生活保護を利用する世帯の生活扶助削減が暮らしを直撃しており、国に

緊急支援策を講じるよう求めました。▽地域づくり総合交付金の予算を増額し、「福祉灯油」を実施する市町村にさらなる財政支援を行う▽地震やブラックアウト（全域停電）で被害を受けた農業生産者に燃油負担軽減のための財政支援を行う▽暖房用灯油の確保へ被災者への特別の支援対策を講じる一を強く求めています。宮川氏は「福祉灯油は昨年、半数の市町村が実施した。交付金増額の予算を組み、道が市町村に働きかけるべきだ」と迫りました。道側は「実施状況をみて、丁寧に対応していく」と答えました。